シンナガサキみーてぃんぐ開催レポート

こどもの居場所



令和8年8月18日（火）、日頃からこどもの居場所づくりに携わっている方や、これからこどもの居場所づくりを始めようとされている方など、13人にお集りいただき、「シンナガサキみーてぃんぐ」を開催いたしました。
普段の活動内容についてお話しいただき、意見交換を行いました。



いただいたご意見

①児童館の運営

時津町は各小学校区に児童館があります。こども達が自分で行きたいときに行って、自分たちで好きな遊びを選んで、そこに安心できる先生がいて、常時開いている場所があるというのは、やはりこどもたちにとってすごく安心できると思います。そして保護者も安心して、「そこだったら行っていいよ」と言える場所があるというのはすごくいいなというふうに思ってます。私の願いというか、野望としては、ぜひ長崎市でも各小学校区に児童館を設置してもらって、何なら自分たちで運営できたらいいなと思っています。

市の考え方 回答	長崎市にも児童館はございますが、市内4か所と限られています。 長崎市では、児童館と言う名称や法的な機能に限らず、こどもたちが歩いて行ける範囲にある公民館やふれあいセンター等の市の施設を、こどもたちが気軽に行けて自由に過ごせる場所「こどもの居場所」として活用できないか検討しています。

②ひとり親家庭等のこどもの食事等支援事業

こども家庭庁の「ひとり親家庭等のこどもの食事等支援事業」を九州・沖縄地区で一般社団法人ひとり親家庭福祉会長崎事務局が唯一受託をしています。こども食堂だけでなく、1年以上のこどもの支援の活動実績があれば助成の対象となります。単価は1人当たり500円です。人件費も出ますし、配送費も食事費も出ますし、家庭状況を把握していれば、ひと家庭につき1月5,000円の食の支援ができます。ただ、行政と連携することがこども家庭庁の要件です。現在は連携ができていなくても、今回のシンナガサキみーてぃんぐのような会議も行政との連携になります。
青年も対象になるので、申請してみる価値はあるかと思います。現在7月～1月までの申請が終了していて、次が2、3月の1団体50万円で1月に募集があります。一般社団法人ひとり親福祉会長崎事務局が受託する場合は、1月早々に説明会を開催し、募集をする流れになると思うので、市からの周知と皆さんも興味があれば申請いただければと思います。

市の考え方 回答	本当に貴重な情報提供で、ぜひこういった情報があれば市にも共有していただき、申請の対象となる場合は、応募していただければと思います。 応募の仕方がわからないなど、何かご不明な点等ございましたら、遠慮なく市にもお問い合わせください。

③こども・若者へのヒアリング

長崎市でこどもからヒアリングしていると思うんですけど、ほぼオンラインアンケート形式でされているかなと思います。こどもの声を聞くということを、いろんな市民活動をされている方とかボランティアの人でやりたいという人がいるならば、一緒に連携してやれたらいいんじゃないかなと思っています。若い子たちへの意見聴取として、オンライン形式では意見を聞きにくいこども達の意見も聞けたらと思っているので、ぜひ市と連携、情報共有しながらできたらと思います。

市の考え方 回答	市としても、こどもの生の声を聴くことは重要だと考えており、昨年度から今年度にかけて複数箇所でヒアリングを行っています。 最近は手軽でコストがかからないオンラインでのアンケートを実施することが増えていますが、より多くの意見の傾向を知ることができる一方で、定量的な回答となってしまうため、ヒアリングを併用していくことが必要だと考えています。ヒアリングにはファシリテーターなど人手が必要となるため、市民活動をされている方やボランティアの方との連携について、検討させていただきたいと思います。

鈴木市長のひと言

改めて、皆さん真摯にこどもたちに向かい合って、どうやったらそのこどもたちが幸せになれるか、生き生きと健やかに成長できるか、そういう願いの一心で真剣に取り組まれているということが本当によくわかりました。



参加者からの感想

市長や地域で活動している方々に伝え、教えていただく機会はとても貴重でした。

たくさんの団体の皆様のご意見や想いが聞けて、市長始め行政の皆様と連携していければと思います。

発行：令和８年11月
長崎市こども部こどもみらい課　企画政策部広報広聴課